

てつだって



ユニークで個性的なアイコン視覚的な コミュニケーション方法

作成者: PECS® (Picture Exchange Communication System®
絵カード交換式コミュニケーションシステム) 教育へのピラミッドアプローチ®の
開発者

「てつだって」の要求についての詳細また、PECS®や教育へのピラミッドアプローチ®の実践
についての詳細はピラミッド教育コンサルタントオブジャパンまでご連絡ください。



PYRAMID
EDUCATIONAL
CONSULTANTS

www.pecs.com

「てつだって」の要求

「てつだって」の要求

健常児の幼児が何かに対してできない時、すぐに大人に援助を得ることを学びます。もし、そのものが小さくて自分で解決できない場合、近くにいる大人のところへもっていくかもしれません。また、物が大きくて動かせない場合、逆に大人をその場に連れていくかもしれません。このような行動は子どもが「てつだって」と発語で相手に伝える前に学ばれる行動です。

コミュニケーション障害がある学習者は、援助を求める事やその他様々な結果を及ぶためには自発的にコミュニケーションをとることを学ばなければなりません。この社会的なアプローチはPECS®（絵カード交換式コミュニケーションシステム™）にあるトレーニング手順をつかって教えられます。学習者が自発的に相手に働きかける（絵カードまたは困難になる実物を相手にわたす）ようになると援助を求める特定の要求をするために他人働きかけることを学びます。

「PECS® 絵カード交換式コミュニケーションシステムマニュアル」第2版（フロスト&ボンディ、2002年）にて説明されている2人制プロンプトの手順を使用し、以下のスキルを教えます。

ステップ1:「てつだって」のアイコンを交換する

コミュニケーションパートナーが学習者が困難するような状況を作り上げ、身体プロンプターが学習者に「てつだって」のアイコンをコミュニケーションパートナーへ手渡すことを教える。学習者が自発的に「てつだって」のアイコンを相手に要求できるようにプロンプトを徐々にぬいていきます。

ステップ2:文カード上に「てつだって」のアイコンを貼る

学習者が「てつだって」アイコンを手渡すことができるようになり、PECSのフェイズIVを実践している場合、学習者にその「てつだって」のアイコンを使って文章に組み込むように教えます。



ステップ3:「てつだって」の要求の拡張

学習者にどんな物事に対して援助が必要か文カード上に対象のアイテム/活動の絵カードを使って、具体的に援助の要求を示せるように教える。



学習者が様々な物事に対し、様々な環境でいろいろなコミュニケーションパートナーに対して援助を求めることができるように教える事を心がけていきましょう。

「てつだって」の指導法にかんする詳細は「PECSトレーニングマニュアル」第2版（フロスト&ボンディ、2002年）にある245-247ページを参照ください。